

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月14日

【評価実施概要】

事業所番号	3611610035
法人名	医療法人 照陽会
事業所名	笠井病院グループホーム
所在地	徳島県阿波市阿波町元町7-1 (電話) 0883-35-2720

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 12月 12日

【情報提供票より】(平成19年11月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤	6人, 非常勤 0人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780 円		

(4) 利用者の概要(11月26日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.8 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・笠井病院 ・安田歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、母体病院敷地内の一面にあり、認知症高齢者の意思、人格を尊重した自立支援を目的とし、平成13年に設立されている。玄関を入ると広々とした開放感溢れる空間が確保され、車椅子や歩行器を使用する利用者の行き来にも支障がない造りとなっている。利用者の重度化並びに終末期の対応にも前向きに取り組み、安全で安心な利用者支援に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「理念」「入浴」「各種記録」「情報伝達」「整容」の課題はそれぞれ工夫・改善されている。介護記録については様式の変更などで工夫・改善がみられる。「介護計画・記録」では、計画作成までの過程(アセスメント・担当者会議等)、見直し時期、同意・交付などに対してさらに改善が求められる。「運営規定・重要事項説明書・契約書」等の書式・文書については、関係法令や通知を基に再度内容を精査し、規程の制定や改正をすることが求められる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が今回の自己評価に関わり、項目の検討や理解への取り組みがされている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。会議には地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民、消防署員、家族、職員等が参加し、運営状況等の報告や話し合いが行われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱の設置や相談苦情等に対する受付窓口としてのホーム相談担当者の明記があり、家族の訪問時には声掛けをしている。しかし、公的相談窓口の記載がない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元中学校の文化祭、運動会に参加している。地域ボランティアによる訪問や中学生による職場体験の受入れにより交流が図られている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で「地域の中でその人らしい生活の支援」を目標に理念が見直しされるとともに、共用空間にさりげなく掲示され、利用者、家族等への浸透が図られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人ひとりが常に理念を意識して日々の支援の中で関わられるよう、毎朝朝礼時に唱和し、共有できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域中学校の運動会、文化祭に参加したり、中学生の職場体験並びに地域ボランティアの訪問などがあり交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に対する職員全員の参画など前向きな姿勢がみられる。前回の改善課題についても、職員間で話し合い改善された項目もあるが、未達成の項目もある。	○	外部評価の結果を共有し、具体的に解決できることから取り組み、順次工夫・改善することを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に行われており、地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民、消防署員、家族、職員等が参加し、運営状況等の報告や話し合いが行われている。しかし、サービスの向上や運営に活かされる討議が十分には行えていない。	○	運営推進会議は、外部の人の目を通してホームの取り組みや、具体的な課題を話し合い、地域の理解・協力を得るための機会でもあることから、サービスの質の向上に活かされるような議題等を検討し、討議内容を充実させることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との連携は、運営推進会議の他は情報交換などの機会が少ない。	○	ホーム便りや、活動状況報告を定期的を送付するなど、実情の理解とホームの運営上生じる疑問や問題の解決を図るためにも市担当者に何時でも相談できるような関係作りが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回ホーム便りを発行し、利用者の生活の様子を伝えたり、訪問時に健康状態等を報告したりしている。また、居室にも写真が飾られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や相談苦情等に対する受付窓口としてのホーム相談担当者の明記はあるが、公的相談窓口の記載がない。	○	第三者に相談できるようにホーム以外の公的相談窓口について、重要事項説明書等に記載し、本人や家族に説明することが求められる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、職員の異動はなく、離職者も3名程で定着しているため、利用者との信頼関係の継続ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修には職員が交代で受講できるよう、管理者は配慮できている。全体会議での研修報告や会議録により参加できなかった職員にも伝達周知されている。しかし、外部の研修への参加がされていない。	○	法人内の研修だけでなく外部研修にも参加されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームへの見学も1回のみである。また、グループホーム協会への加入がなく、同業者との交流はない。	○	同業者と交流する機会を作り、勉強会や連携を図り、サービスの質の向上に向けて取り組まされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には事前面接を実施し、利用者の状態把握に努め、安心して利用してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とのコミュニケーションをとりながら、一緒に食事作りをしたり会話を通して利用者から学ぶ機会を作り、共に支えあう関係作りに努めている。訪問時に利用者との中国の友人との別れのシーンに出会い、職員も別れの時間を共有し、喜怒哀楽を共にされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを日常的な会話の中から汲み取ることができそうな取り組みができています。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の申し送りなどで、意見を聞いて話し合いを行い、介護計画を作成されているが、検討された課題や内容についての記録がない。	○	介護計画の作成時には、利用者、家族等からの意見を聞くとともに、かかりつけ医など関係者の情報提供などを基に担当者会議を開催して検討し、記録することが求められる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の変化がある場合の見直しはできているが、基本的に6ヶ月毎の見直しとなっている。介護計画書に家族等の署名、捺印が取られていない。また、課題分析も毎回実施されていない。	○	原則3ヶ月毎に課題分析を行い、介護計画の見直しを行うとともに利用者、家族等への介護計画の内容説明と、同意の署名、捺印をとることが不可欠である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし柔軟に支援している。また、本人や家族の状況に応じて、外出や送迎の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関のほか、本人及び家族の希望する医療機関を受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の支援は、できる限り希望に添う方針で家族等との話し合いができており、方針の共有ができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇り、プライバシーを損なわないような、さりげない言葉かけや対応ができていますが、入所契約時の個人情報使用同意書が取られていない。	○	個人情報は介護サービスに携わる者として、プライバシー保護の徹底や漏洩防止は責務となっており、適切な取り扱いが求められていることから、事前の使用同意が大前提となっているので早急に同意書を取り付けることが求められる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お茶、食事の時間は決めているが、特に時間を区切った過ごし方はしていない。利用者の体調や希望、状態に応じて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備をし、一緒に食事をしている。寝たきりで食卓に出てこれない利用者には、食卓に近い居室を提供し、居室の戸を開け一緒に食事している雰囲気を出す等の配慮がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する日、時間に入浴できるよう配慮できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の体調や天候に配慮しながら、無理強いしない声かけなどにより外気に触れたり、洗濯干しなどの支援ができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブ等での外出の機会を通して気分転換を図ったり、季節感が感じられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかかっている。職員は利用者の行動に常に関心をはらい、見守りに徹している。外出しそうな様子を察したら止めるのではなく、さりげない声かけや同行するなどし、安全面に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、母体病院と合同で消火・避難訓練を行い、連携や協力体制の確認を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の栄養士により献立が作られている。また、嗜好なども把握され、献立に反映されている。食事や水分の摂取状況は毎日記録され把握できている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく開放的で、室内の温度、光、音は快適な状態に保たれているが、共用空間は一体的なホール形式となっており、生活感や季節感が少ない。また、洗濯機のコイン式のものも設置されていた。	○	日常的に目に触れる場所などに、生活感や季節感のあるものを活用し、時の移ろいを感じさせるなどの工夫が望まれる。また、コイン式の洗濯機ではなく、家庭的な洗濯のあり方を検討されたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベッド・床頭台が準備されている。なじみの家具を持ち込んでいる方は少なく、画一的で個性がない。また、床頭台にはカード式のテレビが設置され、病院的な感じが見受けられる。	○	居室は共同生活を送る上で、利用者一人ひとりが思い思いに過ごせる場所であることから、安らぎを得られるような馴染みの物の活用や家庭的な雰囲気が感じられる環境づくりが望まれる。